



季刊



弥生の出雲王に出会える

# 出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOI NOMORI MUSEUM



マスコットキャラクター  
よすみちゃん

第8号

(2013年1月)

★インフォメーション

●企画展

3月9日(土)～5月6日(月)

国富中村古墳 国史跡指定記念

「お墓のカタチ 穴・箱・部屋

―出雲の埋葬の歴史―

【観覧料 300円】

【高校生以下 無料】

人は太古から今日に至るまで連綿と墓を作り続けています。出雲市でも猪目洞窟遺跡など、古代の埋葬の様子を垣間見られる遺跡が数多く発見されています。

今回の企画展では、発掘調査で出土した墓に関する資料を展示して出雲平野と周辺の埋葬の歴史を概観し、人々の死者に対する思いの変遷をたどります。

【主な展示品】

- ・猪目洞窟遺跡 人骨・棺材
- ・今市大念寺古墳 江戸時代の絵 図・大刀
- ・西谷3号墓 水銀朱・玉切取り (三原一将)

関連講座も開催します。

(詳しくは4ページ)

●ギャラリー展示

2月27日(水)～5月13日(月)

国富中村古墳 国史跡指定記念

「続・よみがえるな！」

―国富中村古墳の発掘秘話―

【観覧無料】

出雲市国富町にある国富中村古墳は、6世紀後半～7世紀初頭に築造された、直径30m程度の円墳です。横穴式石室が未盗掘だったため、閉塞時の状況を留める稀有な例です。また、当時の埋葬儀礼のあり方を知ることのできる古墳としても極めて重要として、国史跡の答申を受けました。

今回は、発掘調査の方法や前室の箱形石棺に焦点をあてて、国富中村古墳に迫ります。

(坂本豊治)



前室の箱形石棺と閉塞石

●速報展示

1月9日(水)～2月18日(月)

新春企画

「2013出雲市所在

新指定文化財・登録文化財

【観覧無料】

新しい出雲の宝を写真・パネル等で紹介しています。

●庭訓往来(神門寺・塩冶町)

●国富中村古墳(国富町)

●出雲日御碕灯台(大社町)

●河下盆踊り(河下町)

●市指定無形民俗文化財

(3ページに関連記事)

2月20日(水)～4月22日(月)

「鰐淵寺 発掘調査速報展」

―平成24年度 鰐淵寺川南地区の調査成果について―

【観覧無料】



調査の様子(南西から)

## ★特集 研究ノート⑧

## ★半分城跡出土の土器を

調べてみると……!

現在、ギヤラリー展示では「発掘された戦国の山城―出雲にも多くの城が!？」を開催中です(2/25まで)。その中で紹介している城の一つが、半分城跡です。

この城跡は、出雲市上塩冶町の出雲工業高校の裏手の山にあります。発掘調査が行われたのは、今から30年以上前の1978年のこと。報告書はその翌年に刊行されています。

今回、半分城跡の展示をするに際して、収蔵庫に眠る城跡の発掘調査で見つかった土器を改めて見直すことにしました。

まず、驚かされたのは、土器が大量に見つかっていることです。山城は基本的に戦争などの非常時を想定して築かれるため、生活の場ではありませんでした。そのため、発掘調査では、わずかな量の土器しか見つからないのが一般的なのです。

さらによく調べてみると、戦国時代(約500年前)の土器はわ

ずかで、土器のほとんどが鎌倉時代(約800年前)のものであることが分かりました。すなわち、山城が築かれるようになるのは戦国時代のことですので、「半分城」が築かれる以前に何かがあったと考えられるのです。

そこで注目されるのは、半分城跡の発掘調査で確認された四角い穴です。縦横1.2m・深さ0.8〜1.0mくらいの穴が整然と並んでいました。これらはその形から墓穴とみられ、穴の底では鎌倉時代の土器が見つかっています。おそらく、鎌倉時代に墓地として利用された山の斜面を造成して、「半分城」が築かれたと考えられます。

考古学に限らず、学問は日々進歩しています。今回もここ30年の間に進んだ出雲平野の鎌倉〜戦国時代の土器研究の成果に基づいています。最新の成果から改めて見直すと、発掘した当時では分からなかったことが明らかになることがあります。博物館の展示研究では、こうした資料の再発掘も大切な仕事の一つなのです。

(高橋 周)

## ★発掘調査の現場から⑤

## ★新たに7基が見つかった

## 上塩冶横穴墓群

市文化財課では、県道出雲三刀屋線の道路改良事業に伴い、昨年8月より上塩冶横穴墓群(出雲市上塩冶町)の発掘調査を実施しています。今回新たに7基の横穴墓が見つかり、先日12月22日に市民現地説明会を開きました。

説明会では現地にて横穴墓や遺物の出土状況を説明したほか、出土した遺物の展示も行いました。当日は小雨の降る中、110名の参加があり、担当者の説明に熱心に耳を傾けたり、様々な質問をする姿がみられました。

上塩冶横穴墓群は、古墳時代後期から終末期(6世紀後半から7世紀中頃)にかけて造られたお墓です。出雲工業高校の裏山から塩冶神社にかけての丘陵(東西0.8km、南北1.5kmの範囲)に分布し、これまでに39支群180穴以上が知られています。

今回の調査により、南向き丘陵斜面に掘られた横穴墓を7基発見しました。しかし、地盤が軟質なため1号横穴墓以外は、天井が崩

落していました。

比較的残りの良い1号横穴墓は、玄室は縦長長方形、長さ約2.1m、幅約1.3m、高さ0.7m、人1人か2人を納められる大きさです。



1号横穴墓

床面から、鉄製の大刀、やじり、斧が各1点、須恵器の蓋坏3点、また入口の前の方からも銀環(耳飾り)2点、須恵器片数点が出土しました。

このほか、2号から7号横穴墓からも須恵器の蓋坏等が出土しています。

発掘調査は継続して行っており、今後も折をみて説明会を開催することになっていますので、ご期待ください。(原 賢二)

H24. 12. 22の  
現地説明会の様子

★指定文化財紹介⑥

「庭訓往来（神門寺所蔵）」  
ていきんおうらい

- ・国指定重要文化財
- ・書跡、2巻

・平成24年9月6日指定

正式名称は、「庭訓往来 至徳三年霜月三日豊前守朝英書写奥書」。室町時代の至徳三年（1386）に書かれたものです。



下巻巻末「至徳三年～」と記されている。

庭訓往来とは、昔の教科書の一  
種で、手紙の形式で当時の生活文  
化に欠かせない語句や行事、常識  
などを記した教養本です。特に武  
家社会で重視され、江戸時代終わ  
り頃まで長期間用いられた往来物  
の中でも特に重要なものです。

1982年に<sup>くにとみなかむらこかん</sup>出雲市指定文化財  
になっていましたが、日本で最も  
古い写本であることが判明し、文  
化史・教育史上極めて貴重である  
ことから、今回、国の重要文化財  
に指定されました。

「国富中村古墳」  
くにとみなかむらこかん

- ・国指定史跡

・所在地 出雲市国富町

国富中村古墳は、古墳時代後期  
の30mの円墳で、埋葬施設は横穴  
式石室です。道路建設中に発見さ  
れましたが、工事計画を変更し現  
状保存されました。

その後の発掘調査によって、埋  
葬当時の石室の様子が完全な状態  
で保持していることがわかりまし  
た。当時の埋葬の様子を明らかに  
できる貴重な古墳として指定され  
る予定です。



完全な形で残った閉塞石

「出雲日御碕灯台」

- ・国登録有形文化財（建造物）

- ① 出雲日御碕灯台
- ② 出雲日御碕灯台正門及び石堀  
・日本一の高さ（44m）の現役灯  
台（海上保安庁所有）



登録された灯台と正門及び石堀

明治36年（1903）に通信省  
の石橋綱彦あわひこによって設計されまし  
た。外側は石積、内側を煉瓦積と  
する全国でも珍しい二重殻複合構  
造が特徴です。石堀は総延長が1  
83mで高さが13mあります。  
日本人の手による当時の日本  
の灯台建設技術を示す貴重な建造  
物です。出雲市内の登録有形文化  
財としては、七件目の登録となる  
予定です。

「河下盆踊り（河下甚句）」  
かわしも

- ・市指定文化財（無形民俗文化財）

- ・保持者 河下盆踊り保存会
- ・平成24年7月25日指定
- 今から681年前、隠岐に流さ  
れた後醍醐天皇ごたいごが鰐淵寺に祈願さ  
れた際、僧頼源らいげんが一山の僧都を集  
め念仏踊りを行った事が起源と伝  
えられています。

時代とともに古くからの形式  
に改変はありましたが、市内に数  
ある盆踊りの中で、甚句を残す踊  
りは河下盆踊りのみで、県内でも  
唯一です。保持されている5種類  
の踊りのうち「河下甚句」のみを  
出雲市無形民俗文化財に指定する  
ことになりました。



河下盆踊りの風景

（文化財保護係）

★講座のご案内

▼出雲市文化財保護審議委員講座

「出雲の文化財Ⅲ」

文化財のプロである出雲市文化財保護審議委員が、その専門分野から出雲の歴史を語ります。

2月23日(土)

「古代出雲の風景を探る」

く地質から明かされる自然史」

【講師】中村唯史氏

(島根県立三瓶自然館)

3月9日(土)

「春日家文書・高見家文書・佐藤家文書―出雲の国絵図・伊能図に関連して」

【講師】池橋達雄氏

(元島根史学会会長)

3月23日(土)

「祈りのかたち―出雲市内の仏像と神像を中心に」

【講師】野克之氏

(島根県立古代出雲歴史博物館)

右の講座はいずれも

- 時間 14時～16時
- 受講料 300円
- 定員 80名

▼企画展関連講座

3月17日(日)

「古代の人骨(仮)」

【講師】井上貴央氏

(鳥取大学医学部教授)

3月20日(水・祝)

「埋葬の歴史(仮)」

【講師】勝田 至氏

(芹屋大学・京都光華女子大学非常勤講師)

右の講座はいずれも

- 時間 14時～16時
  - 受講料 無料
  - 定員 80名
- (受講は事前にお申し込みください。)

▼ギャラリートーク

ギャラリートーク展示を見ながら、学芸員が解説します。

「国富中村古墳について」

3月2日(土)

4月7日(日)

【講師】坂本豊治(当館学芸員)

- 時間 14時～(30分程度)
  - 受講料 無料
- (お申し込みは不要です。)

★館長コラム④



「史書が沈黙するところは墳墓が語る」というイタリアのことわざは、日本でもよく知られています。実際、墳墓は考古学にとって重要な研究対象です。

しかし、墓は永遠かつ平穏な眠りを願ってつくられたものですから、墓の発掘調査はその願いを踏みにじる行為でもあります。考古学は野蛮な墓あばきと眉をひそめる方がおられるのも、ある意味で当然です。

墓をつくってそれを祀ったりする生物は、ヒト以外にはありません。墓をつくる風習は、実はただか10万年ぐらい前に確立しました。死を悼む心は、弱者を介護したり知的好奇心を持ったりするのと同様に、人類がその長い発達過程の中で、最近になってやっと手に入れた獲得的な資質なのです。人類はそれを、人間性の一部として育み進化させてきました。ですから、墓を大切にしたいという感情は人間として当然のものであり、人間が人間である証しの

ようなものだと思うのです。

一方で、墳墓はその時代の文化や思想、技術などが凝縮している貴重な文化遺産でもあります。これを調べれば、過去の多彩な文化内容をさらに明らかにできることも間違いありません。

「墓を壊しましたが、お蔭でこんな事を知ることができました。墓を犠牲にしていただけでありがとう」――墳墓を発掘する考古学者は、こういう気持ちで過去の人たちと向き合わなければならない、と私は思っています。

(渡邊貞幸)

※各種講座・イベントに参加ご希望の方は、電話またはFAX、メールでお申し込みください。

(発行) 出雲弥生の森博物館 2013年1月  
〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760  
(TEL) 0853-25-1841 (FAX) 0853-21-6617  
(e-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp  
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料(特別展等観覧料を除く)